

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

眼科臨床医報 (1986.02) 80巻2号:205～207.

ケジラミ *Phthirus pubis* の睫毛寄生

吉田晃敏、石川由香子、梯彰弘、宮本健司

# ケジラミ *Phthirus pubis* の睫毛寄生

旭川医科大学眼科学教室

吉田 晃敏・石川 由香子・梯 彰 弘

旭川医科大学寄生虫学教室

宮本 健司

## I 緒 言

シラミの人体への寄生は、公衆衛生の向上により極めて減少した。しかしながら、最近眼科領域ではケジラミ (*Phthirus pubis*) の睫毛寄生が問題となりつつある。本邦では1956年から1972年までは本症の文献的報告例は皆無であったが<sup>1)</sup>、1973年以降ふたたびその報告が散見され、特に大部分は幼児に対する寄生例である。最近われわれは、睫毛にケジラミの寄生した幼児の3例に遭遇し、その2例に寝具を介して家族より感染の成立が示唆されたのでここに報告する。

## II 症 例

症例1 4才, 男児 (名寄市在住)。

初診: 昭和54年8月20日。

主訴: 両眼瞼の痒痒感。

現病歴: 昭和54年8月13日、頭髪中に黄白色で1mm前後の虫体を発見。翌日、某内科を受診し、助言により頭髪を短かく切除する。8月19日、両眼瞼の痒痒感のため某眼科を受診し、両睫毛中に虫体が多数存在することを指摘され、当科を紹介された。



図1 初診時の前眼部写真 (症例1)

既往歴: 特記すべきことなし。

家族歴: 患者には7才, 9才の姉がおり、両親と5人で同室で就寝している。

環境: 両親がペットショップを営む。

初診時所見および経過: 両眼の上下の睫毛に、眼脂様物質とともに多数の虫体、虫卵を認めた (図1)。虫体は1mm×1mm前後の大きさで、睫毛根部に集中し、一部皮下出血をともなって存在した。虫卵は、0.2mm×0.4mm前後の大きさで、半透明、真珠様の光沢を有し、睫毛に強固に付着していた。そのほか、軽度の眼瞼炎を認める以外、眼科的異常を認めなかった。頭髪にも数個の虫体・虫卵を認めた。

顕微鏡下にて両眼の睫毛切除および睫毛根部の虫体を除去した。両眼の睫毛より虫体20匹、虫卵25個を採取した (図2)。虫体および虫卵を光学顕微鏡で検査した (図3)。形態学的特徴によりケジラミ (*Phthirus pubis*) と診断した。

二日後、患児の姉7才, 9才の頭髪より2匹, 4匹の虫体がそれぞれ回収された。睫毛への寄生は認められなかった。なお、虫体の両親への寄生は不明であった。

症例2 2才, 男児 (旭川市在住)。

初診: 昭和59年10月19日。

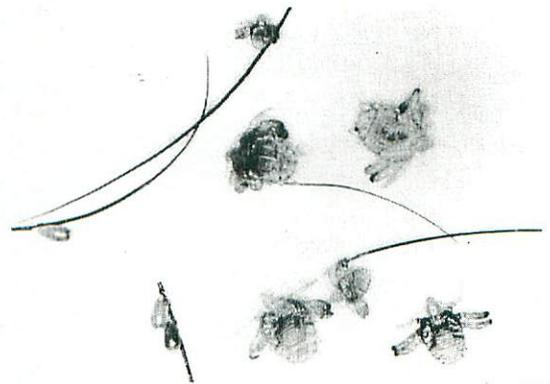


図2 採取した睫毛・虫体・虫卵 (症例1)

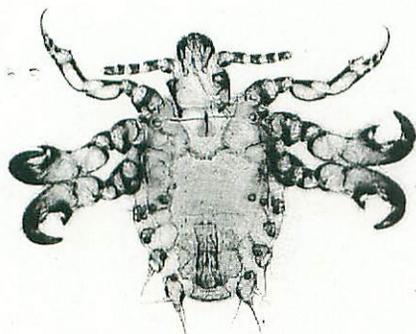


図3 採取した虫体（症例1）

主訴：両眼瞼の眼脂様付着物。

現病歴：10日程前より両眼瞼の発赤が出現。

既往歴：特記すべきことなし。

家族歴：父親（30才）は同年8月、9月と温泉旅行をした。以後陰部の痒痒感を訴え、某院にて粉末剤を処方され塗布していた。患児には4才の兄がおり、両親と4人で床を並べて就寝している。

初診時所見および経過：両眼の上下の睫毛に症例1と同様に、多数の虫体・虫卵を認めた。両眼の睫毛根部には眼脂が付着し、出血点をともなった眼瞼炎の所見を認めた。角膜その他眼科的異常を認めなかった。

睫毛を切除し、多数の虫体・虫卵を除去した後、抗生物質の軟膏を眼瞼に塗布した。頭髪にも多数の虫卵を認めたため、スミスリン®（フェノスリン）溶液で洗髪するよう指示した。採取した虫体・虫卵の顕微鏡検査の結果、ケジラミ（*Phthirus pubis*）と断定した。

家族調査の結果、10月19日、父親の陰毛に虫体を認め、母親の陰毛にも虫体・虫卵を認めた。患児の兄には虫体・虫卵を認めなかった。12月12日、家族4人のいずれも虫体・虫卵を所有しないことを確認した。

症例3 3才、男児（釧路市在住）。

初診：昭和59年10月29日。

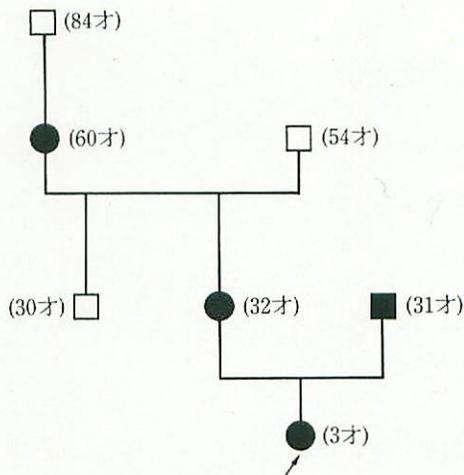
主訴：両眼瞼の痒痒感。

現病歴：8月下旬より両眼瞼および頭部の痒痒感を訴えていたが、放置していた。

既往歴：特記すべきことなし。

家族歴：患児は図4に示すような家族と同居し、60才の祖父と添い寝をすることが多い。祖父は8月中旬より陰部の痒痒感を自覚していた。

初診時所見および経過：両眼の上下の睫毛に症例1と同様に多数の虫体・虫卵を認めた。眼瞼は痂皮をともない、発赤、腫脹していた。その他眼科的異常を認めなかった。



黒ぬりはケジラミ寄生者。△印は患児。

図4 症例3の家族構成

同様に睫毛を切除し、多数の虫体・虫卵を除去した後、抗生物質の軟膏を眼瞼に塗布した。頭髪虫にも、虫体数匹と多数の虫卵を認めたため、頭髪を短かく切除し、スミスリン®（フェノスリン）溶液で洗髪するよう指示した。採取した虫体・虫卵の顕微鏡検査の結果、ケジラミ（*Phthirus pubis*）と断定した。

家族調査の結果、10月30日父親の腋毛より虫体を数匹採取した。10月31日祖父の陰毛より多数の虫体を採取した。また、11月1日母親の頭髪より虫体を一匹採取した。採取した虫体は、顕微鏡検査の結果いずれもケジラミ（*Phthirus pubis*）と断定した。なお、問診の結果、祖父は8月上旬に地方に出張のさい、水商売の女性と接触のあったことが判明した。祖母および、別室で生活している叔母（30才）には虫体・虫卵を認めていない。祖父は陰毛を切除し、患児および両親の定期的検査の結果、初診より1カ月後には虫体・虫卵を認めなくなった。

### III 考 按

Duke-Elder<sup>2)</sup>、加納ら<sup>3)</sup>によると、人体に寄生するシラミは、コロモジラミ body louse (*Pediculus humanus corporis*)、アタマジラミ head louse (*Pediculus humanus capitis*) の2亜種とケジラミ crab louse (*Phthirus pubis*) の1種である。このうち、眼科領域で問題となるのは、アタマジラミとケジラミである。前者は、頭髪に多数寄生した場合に眉毛、睫毛にも寄生することがある<sup>4)</sup>。後者は、主として陰毛に寄生するが、腋毛、眉毛、睫毛にも寄生することがある<sup>5)</sup>。睫毛のみならずわれわれの症例3の父親の腋毛にも明らかなケジラミの寄生を認めた。

本邦におけるケジラミの睫毛寄生の報告例は、1955年までは9例、1956年から1972年までは皆無で、1973年以降ふたたび散見されるようになった<sup>1)</sup>。これには、DDT (dichloro-diphenyl-trichloro-ethane) の普及とその製造中止が関係しているように推察される。DDTは戦後本邦においてもその殺虫効果の強力さから普及し、一方その毒性のため、1971年に製造中止となっている。すなわち、DDTの使用中止とともにケジラミの繁殖が起こっていることが推測される。

ケジラミの繁殖にともない、睫毛寄生に到るその感染経路がふたたび問題となる。従来ケジラミ感染は、そのほとんどが身体の直接接合によって起こると考えられていた。これが準性病といわれるゆえんである。そして、陰毛に寄生したケジラミは、患者の手指を介して睫毛に寄生するとされている。眼科的には、ケジラミの睫毛寄生は幼児に圧倒的に多く、われわれの3症例もその例外ではない。今回行った家族調査によると、症例1以外は家族の者の陰毛への寄生が、その発端となっていることがわかる。興味あることに、家族環境の調査から、その後幼児が感染するに至るまで、発端より寝具を介して感染の成立が強く示唆された。

われわれの経験した症例は、氷山の一角と考える。また、今後性風俗の変遷にともなって眼科領域でもケジラミ症に遭遇する機会が増加するものと考えられる。これらに対する治療対策の一つとして、感染経路の解明が重要であ

るが、その中でも、今回われわれが示したように、寝具を介する感染があることを銘記すべきと考える。

#### IV 結 語

4才男児、2才男児、3才男児を中心としたケジラミの睫毛、頭髪への寄生の3家族例を報告した。2家族例において、幼児への感染の成立は、発端者から寝具を介して行われた可能性が強く示唆された。

(保坂明郎教授のご校閲に深謝致します。)

#### 文 献

- 1) 長 真理子・安達恵美子：ケジラミ (*Phthirus pubis*) の睫毛寄生例と本邦における報告例のまとめ、臨眼, 75: 306, 1981.
- 2) Duke-Elder, S.: System of Ophthalmology, Vol. 8, Part. 1, 430, Henry Kimpton, London, 1965.
- 3) 加納六郎・田中 寛：新寄生虫病学, 239, 南山堂, 1984.
- 4) 蟻塚高生, 他：ケジラミの睫毛・眉毛・頭毛寄生, 臨眼, 33: 108, 1979.
- 5) 大滝倫子, 他：頭髪に寄生したケジラミ症の3家族例, 皮膚臨床, 21: 655, 1979.

(よしだ あきとし, いしかわ ゆかこ,  
かけはし あきひろ, みやもと けんじ)

(〒078-11 旭川市西神楽4線5号3番地の11)

旭川医科大学眼科学教室)